

令和3年度 かば桜学園の研究の構想

1 研究主題

『学級づくりを基盤とした小中一貫教育に関する研究』
～社会性と情動の学習をとおして～

2 主題設定の理由

これまで本学園では、「学力向上」や「豊かな人間性」の基盤として、「学級づくり」を中心に据えた研究に取り組んできた。具体的な取組として、学級活動や道徳の時間において、小中で連携して統一した方法やマニュアル等で行うなど工夫を行ってきた。しかしながら依然として学力に課題のある児童生徒や、不登校児童生徒も少なくない。個々の児童生徒への具体的な対応策が十分でないといった課題も残っている。

そこで、令和3年度より、これまでの研究の蓄積を大切にしながら、取組を精査し、新たな視点で新たな取組も創造していきたい。本学園の重点課題である「学力向上」「豊かな心の育成」を目指し、基盤としての「学級づくり」を大切にしたい研究を小中2校で寄り添いながら行っていくために本研究主題を設定した。

3 研究の目的

学級づくりを基盤とした「社会性と情動の学習（SEL-8S）」や全校での「小中交流事業」の効果的な取組をとおして、児童生徒の「学力向上」や「豊かな人間性の育成」について、エビデンスを元に、その変容を明らかにすることを目的とする。

4 研究の方法

3つの研究組織（以下、「6」に掲載）を構成し、小中連携事業の精選及び実施、「社会性と情動の学習」の教育課程への位置づけ及び実施、hyper-QU（学級満足度尺度等）、アセス（学校適応感尺度）を用いた学級状況のアセスメント等について、小中推進委員会・部長会、小中合同研修会をとおして研究を進めていく。

5 本研究で目指す児童生徒像

かば桜学園の目指す生徒像 笑顔あふれ、やさしさと行動力のある児童生徒

本研究で目指す生徒像 経済社会状況や科学技術の変化の激しい時代にあっても、「知識と知性」「思いやり」「責任感」を兼ね備え、「健康」な生活を送ることができる児童生徒（「SELで目指す人間像」より）

6 研究組織（令和3年度）

